

次に、11番議員の一般質問を許します。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） おはようございます。

議席番号11番、山本です。通告に基づき、一般質問いたします。

はじめに、外国人労働者の行政対応についてであります。

今春、商工会会員と意見交換会を行う機会がありました。その中で最も多く出た話は、昨今の原油、原材料価格の高騰と人手不足の問題でした。少子化により八峰町でも企業の人材不足、人手不足の様相が見て取れ、事態は深刻です。中小零細企業が多い八峰町ともなると、設備投資もままならず、高齢化でIT化にもDXにも対応できず、人手不足、人材不足からの倒産・廃業も否定できない状況であると推察されます。

八峰町では、地域経済を支える上で必要不可欠な人手の確保について、地元労働者の雇用もさることながら、今後、人手不足を補う外国人労働者の雇用に対してどのような認識を持っているのでしょうか。

八峰町で働く外国人労働者の在留資格別人数や国籍、そして在留資格別での職種の把握をしているのでしょうか。

町内の企業では、既に外国人労働者の雇用をされている経営者もおりますが、地元労働者雇用を含む外国人の雇用ニーズの調査を商工会とともに相談会・説明会など実施されているのでしょうか。

人手不足を外国人労働者で補うならば、町内企業も外国人労働者の雇用も増えることとなります。少子化減少が続く町は、その外国人労働者と地域とが共存共栄し、八峰町の経済を共に支え合うことが、人材不足、人手不足に対する対策として重要であると考えます。行政の役割は、地域コミュニティの受け入れをし、相互理解、交流を通じて、技能実習生たる外国人労働者に選ばれる企業、選ばれる町となるよう、行政は率先して取り組むべきと考えますが、町の意向を問うものであります。

次に、高付加価値観光の取り組みについて。

八峰町で育った者として、町への思いは人一倍強く、何としてもこの町の個性や魅力を守り、さらに伸ばして元気にしていきたい。私だけでなく、多くの町民は考えているはずであります。

何を実践すればいいのか。私たち町民が良いとする、魅力とする、生き生きとした八峰町の個性を伸ばすためには、従来の慣例に抵抗し、その方法にあらがい、新しい高付加価値が観光をつくらなければならないと考えます。そのために、八峰町の観光行政の

役割として、町民意識として自慢できる高付加価値な観光の受け入れ環境を整え、つくることではないでしょうか。

八峰町には、商店街や飲食街、駅前の商業街、神社周辺の観光街、そして温泉街など魅力的なエリアがありません。名所旧跡、鑑賞施設もなく、魅力を欠くこの町にあって、唯一希望になれるのが世界遺産白神山地のネーミングを用い、インバウンドに対応した白神観光の開発であると思うのです。白神山地ネームバリューは大いに役立つのに、フル英語表記でのSNS発信すら見つけられない広域での実施しているDMO事業の内容、これは検証が必要ではないのでしょうか。毎年多額の能代山本観光連携のDMOに多額の支出をしているのに、その実績たる令和5年度では、能代山本地区で宿泊者586人、これで宣伝した効果があったと言えるのでしょうか。もう連携を中止して、八峰町独自に町内在住の外国籍の人からSNS発信をしてもらうことの方が、移住外国人による魅力の発信力と効果が伴うものと思いませんか。

魅力をつくるプロセスは一朝一夕に築けるものではありませんが、基本は職員が主体的に事業改善し、各自治体の真似をする観光改革ではなく、外部の力を借りてでも八峰町ならではの独自の観光ビジョンを職場間で無駄のない活動、むらなく共有、無理ない持続を進め、特異な町の高付加価値な観光コースを商品化できると確信しています。

今年、ニツ森線の開通に合わせ、ニツ森登頂と留山入山にインバウンドの増加による環境保全の目的のため、入山料徴収。観光賦課への負担軽減のための車両制限、外国語翻訳アプリなどでのガイド、3点をセットした高付加価値観光の商品を企画することを提唱します。

以上2点、町の対応を問うものであります。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 山本議員のご質問にお答えいたします。

はじめに、「外国人労働者の行政対応について」であります。

日本で働く外国人労働者は、昨年10月末時点において約230万人と過去最高を更新しており、情報サービス業や建設業を中心に人手不足が解消されない状況にあって、外国人は国内の産業を支える貴重な労働力となっております。

また、過疎化が進む地方にあっては、若年層の流出や高齢化の進行を背景に、生産年齢人口の減少に歯止めがかからず、労働者不足による地域産業の衰退が深刻化しており

ます。

本町においては、今年の2月末時点で、技能実習生が44人、特定技能者1人が住民登録されており、国籍別では、ベトナムが36人で最も多く、次いでネパールが5人、インドが4人となっており、縫製業や土木・建設業、介護福祉関係を中心に、町内5つの事業所において、貴重な戦力として重要な役割を果たしていると聞いております。

こうした中、町では昨年度から、母国を離れて暮らしている外国人労働者等を対象にした多文化交流会を開催しており、昨日にも峰栄館を会場に、地域住民や外国人労働者など約20人が参加し、ベトナム料理づくりやフェルトアートづくりを楽しみながら親睦を深めたところであります。

また、厚生労働省では、外国人特有の事情に配慮した就労環境の整備を行い、外国人労働者の職場定着に取り組む事業主に対し、その経費の一部を助成する「人材確保等支援助成金」を実施しているほか、県においても、外国人介護人材とのコミュニケーション支援などに要する経費を補助する環境整備事業を実施しております。

さらに、白神八峰商工会でも、地域の活性化により自立を目指す「アクションプログラム」に取り組んでおり、その中の住環境整備部会では、「外国人労働者の受入体制の強化」に関する検討が進められております。

しかしながら、本町においては、これまで、事業所向けに外国人労働者の受け入れに関する相談会や説明会、アンケート調査を実施したことがないため、外国人雇用に関する課題や要望等の集約には至っていないほか、外国人労働者との関わりも限定的であることから、職場環境や住環境、日常生活での困りごとなど、労働者側の実情についても把握できていない状況であります。

今後、町といたしましては、地域住民と外国人労働者が気軽に交流し、互いの文化を学び合う機会の創出を継続していくほか、毎年、商工会で実施している会員向けの景気動向調査に、人材確保や外国人雇用に関する設問を追加してもらうことで、町内事業所が抱える課題や要望等を集約するとともに、町内の事業主と意見交換を行い、現状や課題の把握に努めてまいります。

また、昨年6月に開設した「秋田県外国人材受入サポートセンター」では、相談サポート体制や専門家による個別支援体制が整備されており、出前講座や出張相談会にも対応しておりますので、町といたしましても、様々な機会を捉えて、町民や町内事業所に広く周知してまいります。

さらに、他市町村においては、技能実習生の送り出し費用や教育費等の一部を支援する仲介料助成事業や、外国人労働者の地元消防団への加入など、様々な取り組みが進められていることから、本町においても、商工会や自治会等と連携しながら、新たな多文化共生のあり方について検討を進めてまいります。

加えて、現在、国では、日本語教室の設置・開設を目的にした「地域日本語教育スタートアッププログラム事業」に取り組む市町村を募集しており、本町においても、県や国際交流協会等と連携し、外国人との交流の場にもなる日本語教室開設に向けた可能性について検討を進めてまいります。

次に、「高付加価値観光の取り組みについて」であります。

国内の観光業は、コロナウイルス感染症の5類移行を契機に、国内旅行や訪日旅行を中心に賑わいを取り戻しはじめ、特にインバウンド需要の回復は目覚ましく、訪日外国人旅行客の2024年の消費額は、過去最高だった2019年の4.8兆円を上回る8兆円に到達する見込みとなっております。

しかし、こうした観光需要の回復は三大都市圏や一部観光地に偏在しており、地方部においては、地域の核となる観光施設や豊かな自然、伝統行事、特産品などの地域資源をこれまでよりも一歩踏み込んだ形で活用していくことにより、新たな地域コアバリューが創出され、特色ある高付加価値が生み出されているものと認識しております。

また、国では、現在「地方における高付加価値的なインバウンド観光地づくり」の実現を目指し、地域特有の文化や自然を生かした体験型観光の整備に注力しており、町としても、今後、インバウンド需要の獲得に向け、こうした社会情勢の変化に対応した取り組みを推進していく必要があります。

町では、コロナ禍以降、新しい取り組みとして、観光協会やガイドの会等と連携してトレッキングと音楽を融合させた「留山・森の音物語」を実施するなど、新規観光コンテンツの開発に取り組んでおります。

また、昨年12月には、県とJR秋田支社が合同で企画した大型観光キャンペーンの中で、冬の臨時列車「ストーブ八峰」が運行され、約80人の鉄道ファンがあきた白神駅で下車し、八峰町の自然や食を満喫したところであります。

さらに、能代市山本郡の1市3町で構成される地域連携DMOでは、白神ツーリズムを核とした海外旅行会社向けの商品開発ツアーに取り組んでいるほか、外国人観光客への対応能力を向上させる接遇研修等も実施しております。

加えて、インバウンド対応として、ハタハタ館とポンポコ山バンガローにWi-Fi環境を整備しているほか、今年2月には、既存のツインルーム4部屋に大型のシャワーユニットを設置したところであります。

しかしながら、八峰町に訪れる観光客の多くは、複数の観光スポットを短時間で回る通過型観光であり、今後、経済効果の高い体験型観光や滞在型観光を推進していくためには、白神山地をはじめとする豊かな自然資源を生かした魅力的な体験・交流メニューの開発や、付加価値の高い選ばれる商品づくり、インバウンド需要に対応できる体制づくり、効率的に観光ポイントを回るための移動手段の確保等が急務となっております。

今後、町といたしましては、人気の高いトレッキングコースである留山・三十釜の充実を図るとともに、ガイドの会やJR等と連携した日帰りツアーを予定しているほか、豪雨災害により通行止めとなっている二ツ森登山口への唯一のアクセス道路である町道白神二ツ森線についても、今年11月には全ての区間で工事が終了する見込みとなっており、これにより、同エリアと周辺地域を訪れる観光客数は一定程度回復するものと考えております。

また、今月1日より供用を再開しているハタハタ館のツインルーム4部屋についても、このたびの改修によりシャワーユニットが設置されたことで、DMOが販売する外国人向けツアーの宿泊先として選択されやすくなり、これにトレッキング等の体験型事業を組み合わせることで、滞在型観光が推進されるものと期待しております。

さらに、近年は、輝サーモンや黒椎茸、日本酒の醸造所を併設したカフェなど、対外的に評価や注目度の高い取り組みが推進されており、今後も、地元の若者や民間事業者等が取り組む新規事業を支援しながら、魅力的で付加価値の高い観光コンテンツの開発に努めてまいります。

一方、現時点においては、複数の移動手段を用意することは難しい状況にありますが、デマンドタクシーを活用した周遊観光の可能性等も含め、観光客にとって快適かつ利便性の高い移動手段を提供できるよう検討を進めてまいります。

いずれにいたしましても、人口減少や観光ニーズが多様化する中で、これまでと同じような取り組みでは効果が期待できず、今後は、将来にわたり持続的に誘客が促進されるよう、地域資源を活用した収益性が高い観光コンテンツの開発に取り組んでいく必要があるものと考えております。

また、国では、「第四次観光立国推進基本計画」において、「地方誘客に効果の高い

コンテンツづくり」を強力に支援するとなっていることから、本町においても、事業対象になり得る安定的な利用実績が見込める施設等の洗い出しや、高付加価値化に向けた検討を進めて、引き続き、国の動向を注視しながら、再整備に必要な財源の確保等に努めてまいりたいと考えております。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、再質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） はじめにですね、これ、外国人実習生の数、まあほとんどの報告があったんですが、現実には私が今質問したいのはですね、町内にいる、要は嫁さんになった外国人もいるわけですよ。で、まあ私の近所に確かフィリピンだったと思うんですが、フィリピンから嫁さんなって地元で子どもも生んでいるわけですが、その彼女と話している時に、私ら外国人の話もよく聞いてほしいことがあると言われたことがあって、能代山本でも結構そのフィリピンに限らず、いろんな外国人がいて、結構交流があるらしくてですね、で、その方、その彼女らの話によると、私らの仲間でもやっぱり日本に来たいと、来てみたい、もし仕事があれば勤めてみたいというふうな話があるということなんですね。ということは、現実には制度的に実習生というスタイルしか世間的にはないように見られているわけですが、来たいというそういう外国人の要望というものもあると。実際には来てすぐ就業できるかどうかという詳しいことは手続き的に分かりませんがですね、その辺のことをやっぱり実態としてまず理解しているのかどうかということなんですよ。まあ行政でも、その事業をしている事業者でもですね、その辺の事情はどの程度把握をしているんでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの11番議員の再質問に対し、当局の答弁を求めます。成田商工観光課長。

○商工観光課長（成田拓也君） ただいまの山本議員のご質問にお答えいたします。

町内に就業されております技能実習生の数は先ほど申し上げたとおりですけれども、答弁にもありましたとおり、町内の事業者の皆さんがどの程度外国人労働者というものを期待されているかという具体的な数字とかはまだ捉えておりませんので、商工会さんの景気動向調査の方に設問を追加して、そういったところを把握していきたいと思えます。また、実際に海外の方が日本での就業を希望している声があるということについては、全国的な、国内に外国人の就業者の数も伸びておりますので、そういったものを的確に捉えて、当町においてもそういった数字を踏まえながら取り組んでいきたいと思えます。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） そういうふうな現場っていうか女性の声もある。なのにかかわらずですね、地元の企業の、まあ中小事業者の方が人手不足っていうけども、本当に募集してるんですかということが分かってないんですよ。伝わらないんですよ。まあ私も最近、まああちこちの募集状況を調べてみたら、八峰町でネット環境で募集してるのは大森建設とサン縫製だけです。それ以外に募集かけているというのは全然出てこないんですよ。ですから、町内企業の中で人手不足だ、人材不足だと言いつつ、それは口だけであって、実際には何にも募集してないんじゃないかなというふうな印象も受けるわけですよ。ですから、もし本当に募集しているのであれば、我々つたない議員であってもですね、ここで募集してるがらどうだとかって紹介もできるわけけども、その辺の状況、まあ商工会なり町としてどこまでつかんでるんでしょうか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。成田商工観光課長。

○商工観光課長（成田拓也君） ただいまのご質問にお答えいたします。

町が能代市と三種町と共同で実施しております求人サイトへの登録事業に関してですが、昨年度が登録者が6社でありましたけれども、今年度のところが7社ということで、それについてはほぼ横ばいの求人の応募の状況になっております。また、ハローワークの方で掲載しておりますそういったサイトにつきましても、相当数の人数は把握できておりますので、町内におきましても、ほかの自治体と変わらない、やっぱり人手不足という状況は相当あるのかなと感じております。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） 人手不足と言いつつ、その辺さっぱり伝わってこないと思いますよ。例えば、ある左官に業者の人、人足りねして大変だと言いつつ、じゃあ本当にすぐでも雇用する気が、まあ雇用する気がっていうか、体制にあるのかどうか。まあ大工さんでもそういう話はあるんですが、それは本当なのかどうか全然伝わってこないんですよ。単にその場、その短期的に不足して欲しいのか、本当に正職員として周年雇用ができていいのか、それすらもこう伝わってこない状況である。そのために、まあ町内の子どもら、まあ県外に全部仕事を求めて行くような感じになってるんじゃないかなって私は思うわけですよ。やはり地元の建設でも左官でもトタン屋でも、

本当に周年雇用するという意識がちゃんとあるんであったら、町の広報でもどんどん出してですね、年中募集と、こういう形で出してもらう必要があるのではないかなって思うわけですよ。そうすることが必要だと思うんですね。で、もしそれでも足りないということであれば、やはり外国人にその補充、補いを求める、そういうふうにしていくということが必要なのではないかなと思うんですが、その辺について。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 人手不足につきましては、これだけですね人口減少、あるいは少子高齢化が進んでおりますので、どこの事業者も同じような話は私も聞いているところでございます。ただ一方で、今、その外国人の話でございませけれども、やはり縫製業とか介護関係の方で八峰町に入ってきていただいておりますけれども、やはりいろいろと聞くとは、言葉の壁とか、まあ覚えるのがちょっと時間かかるとか、いろいろといった課題はあるように、まあ我々もちょっと聞いているレベルですので、実際のところしっかりと状況把握までは至っていないといった状況でございませ。ただいずれ、これだけですね人口減少、あるいは少子高齢化が進んでいくと、人手不足になるのはもっともっと顕在化してくるところでございませるので、そうなりますとやはり外国人の労働者というのは非常に貴重な戦力になるというふうに私は考えているところでございませ。

したがいまして、この外国人登用にあたっては、我々も情報がかなり不足しているところもありますので、そういったところの情報収集に努めながら、しっかりと町内事業者へそういったのをフィードバックしてまいりたいというふうに考えているところでございませ。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに再質問ございませせんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） もう一つ、外国人を雇いたい事業者がいっぱいいると思うわけですけども、そのやり方が本当に個人営業とか小さい会社がなかなか難しいですよ。まあそれともう一つは、宿泊する場所ですよ。それを確保しないでですね雇いますから来てくださってと言っても、泊まる場所も確保できないままそういう話を進んでいっても、これは無理な話であると思うんですよ。ですから、ちゃんと宿泊も大丈夫ということを示してやらなければならないし、で、来てもらったからには地元のこう楽しく過ごせる環境っていうものが必要だわけですね。そうすると、それは何が必要だかという、やはり話せる、母国語を話せる人。まあ地元でもフィリピンなり韓国なり中国人も

いるわけですよ。だからそういう人方との交流っていうものはやっぱり図っていかないと、ああ、一人も話せないまま孤立させれば結局は逃げていくというふうなことになってしまうので、その辺を重点的に商工会とともに話し合いしていくべきだと思うんですが、その辺、意識の問題、答弁願えますか。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 当然ながら、この問題は私も重く受け止めているところでございますので、引き続きですね商工会等としっかりと連携しながら、その対応に努めてまいりたいなというふうに思っております。

いずれその住むところに関してなんかいいますと、やはり事業者がですね自らやはり用意するというのが私は基本だと思っておりますけども、やはりそれにやはり費用を要するとすればですね、例えば空き家を活用したリフォーム事業なんか本町でやっておりますので、そういった既存の事業なんかをですね、しっかりとアピールしながら、事業者さんがですね、あまりこう負担のない形で外国人さんを労働者として迎えらるような体制づくりといったところを支援してまいりたいなというふうに思っています。

○議長（皆川鉄也君） ほかに再質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） その外国人の日本での就業というのは非常に期待してるものがあるんですけど、ていうのは、国内に女性がいないです。まあ外国の方からお仕事に来てもらえる女性の方が割と若い。そういう人方が日本人とくっついてもらえれば非常にありがたいわけですね。まあそういうこともあって、まあそういう外国人の女性方が多く入ってくる、そして日本人の男性とくっついてもらう。そうすることも移住・定住の一つのきっかけにはなるかと思うので、是非外国人の受け入れということをもうちょっと真剣に考えてほしいなというふうに思います。答弁はいいです。

次に、高付加価値の観光ということですけども、インバウンドっていうことで、私、冒頭で質問いたしましたが、皆さん全部覚えているようにね、八峰町については観光地という場所が一つもないわけで、唯一、ハタハタ館をそういうふうなものにしようとしたんですが、結果は先ほど質問されたようにですね、ハタハタ館の運営状況がそのような状況だということで、非常に八峰町としての観光地の魅力というものが何にもない。で、まあいろいろ考えたんですが、唯一、今それを使えるコンテンツとしては世界遺産と、白神山地というふうなものがあるんですけど、これは町内で、町内というか町としてはあまり使われてない名前ですけども、海外においてはこの世界遺産のネーミングって

いうのはやっぱり厳然としたものがある。ただ、アクセスや宣伝がないためにほとんど来てない。まあ唯一来てるとすれば青森県側。秋田県側にはほとんど来ていない。まあ藤里には若干来てるけども、秋田県は道路も悪いし、車の便もないというふうな状況の中でほとんど使われてないんですが、海外には非常に有名だわけです。これを何とかしよう。ということは、これのアクセスなり観光を強化すると、これはインバウンドというところで高い料金設定で客を呼べるということだわけですよ。そのためには、そこに対して、例えば今、今年度、二ツ森線が開通しますが、ここに対しては電気自動車なり水素自動車でなければいけないようにする。なおかつそれを行くための自然保護を壊さない保護活動のために入山料も取る。そういうふうなスタイルにしてしまう。で、なおかつインバウンドですから他言語を話さないと駄目なわけですが、それについては英語教育、まあもし最初は無理ですからタブレットでガイドを英語で見せるような形でもいいんだろと思いますが、いずれ何か会話していくうちにはですね、片言では通ずることもできるし、補完的には翻訳アプリもあるわけですから、そういうふうな英語対応をします。で、そういうふうな環境的な部分でEVなり水素自動車にそういうふうなものを導入する。そういうふうなことを考えているわけです。で、併せて、二ツ森線はいつも雨とかで不通になることが多いので、その代替として現在も使われている留山という場所があるわけですが、あそこの散策コースはですね1時間足らずで終わるわけですよ。それだと滞在時間があまりにも短くて八峰町にとどまる時間が少ないために、今、留山の中に別な散策をできるルートを拡大しようと今もくろんでおるところです。そういうことによって1時間を2時間、3時間まで広げることができれば、そこもかなり先ほど言った車のEVでのガイド並びに自然保護のための入山料の設定、そういうようなものができる。で、なおかつちゃんとガイドもして高付加価値をつけることができる。ということは今進めて検討している最中です。ていうのは、これはネイチャー協会のガイドの団体と話し合ってるところです。まあそういうことが一つあってですね、その後に、今、白瀑のやってる酒ラボですか、あそこが今、結構外国人が来てるといって、結構高付加価値的な食事提供をしているわけですね。ああいうふうな、今、点である、白瀑神社も今、外国人や何だ、ヘルメットのあれで結構人が来てるわけですが、あれが点でしかないわけですよ。それを一つのルートとして、まあ観光バスに近いものを回せれば、これでかなりいい金が取れる。まあ外国人は4万円、5万円、10万円なんて普通に小遣い程度って考えていますので、そういう観光をつくるのが非常にこれから必

要なんではないかなと。で、それに併せてもくろんだのがハタハタ館のシャワールームだと思うんで、まあああいうふうなところも当然使うことになるわけですから、そういうふうな白神山地の観光という高付加価値な部分を私はこれから進めるべきではないのかなというふうに思ってますが、それに対して、長くなりましたが、ちょっと返答をください。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） まずはじめに、白神山地の入山の件からちょっと触れたいなというふうに思っております。

実は、私が町長に就任してからですね、ずっとアクセス道路が通行止めがずっと続いておりまして、なかなか皆さんが行けてないといった状況でございますけれども、実はですね、私、町長に就任した時に白神山地は30周年を、自然遺産登録30周年を迎えたところでございまして、マスコミ各社からいろいろな取材を受けました。その際ですね秋田県側はやはり入山禁止だというようなところを大きく報じているものですから、なかなか観光客が入りづらくなっていると、そういった話を聞いたところでございます。ただ一方ですね、同じ青森県側でございすけれども、青森県側はガイドつきであれば、まあ条件つきでございすけれども入山が可能だというふうなところ、30年間ずっとやっているところでございまして、そういった話がですね、どうも観光客の皆様には青森県側だったら入れるというような印象があつてですね、やはりそちらの方が観光客が相当増えてきているんだらうなというふうに思っております。したがって、私もですね取材を受けるたびに、なかなかこの八峰町には核心地域等ございせんので発言する立場にはあまりないんですけれども、できることならばですね青森県側と同様に、ガイド同伴つきでですね入山規制できるようなその体制づくりが確立されればですね、今よりも、少なくとも今よりは観光客が増えてくるのかなというふうに期待しているところでございますので、引き続きこれは環白神とか県なんかにも、対しましてもですね、こういった働きかけをしていきたいなというふうに思っているところでございます。

また、留山のルートの特大につきましてはですね、ちょっと私も情報はまだ把握しておりせんけれども、あそこ非常にですね、だんだんメジャーになりつつあるなというふうに思っておりますので、そういった面も含めましてですね、更なるルートの特大というのは私も非常に賛成したいなというふうに思っております。いずれ今後もですねガイドの会々とですね、関係機関とそういったところを連携しながら、更なる特大につ

いても努めてまいりたいなというふうに思っております。

そしてまた、先ほど議員からご提案のありました電気自動車とか、あるいは入山料を取るというようなところのご提案でございますけれども、やはり自然環境に優しいというようなコンセプトでいくなればですね、そういった取り組みも非常に魅力的だなというふうに思っているところでございます。ただ、やはり多くの課題はあろうかというふうに思いますので、そういった課題の整理等を進めながらですね、そういったことが実現できるように関係団体ともしっかりと連携を強化してまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、再質問ありませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） 非常に前向きで答弁もらったんですが、例えば入山料を取るとなると県とか国とかが多分いろいろ言ってくるんだろーと思いますけども、それに対してやっぱり地元としてあらがってそれを成し遂げるというふうな意気込みでかからないとですね、なかなかこういうふうな、まあ八峰町単独でやるっていうふうなことについては難くなるんだろーというふうに思いますけども、それは是非頑張っけてやってもらいたいなと思うんですね。

あと、そのバスについてもですね、まあほかの、まあ言っちゃ悪いですが、能代からでもほかからでもどんどん車に入って、何だ、散策している人もいるわけですよ。それをストップするっていうことによって、まあその価値っていうものが出てくるわけです。ですから、バスという交通手段というのやはり是非入れてほしいというふうに思います。

それともう一つはですね、海岸ですよ。体験センターで子ども向けにしかやっていないシーカヤックがあるんですが、あれを大人向け、インバウンド向けで対応すれば、私はあれは非常に興味あるんじゃないかなと。まあ二ツ森に行くより私個人だったらシーカヤックの方に体験したいな。あれも非常に価値ある体験ではないのかなって思っているんですよ。ですからそういうふうなことを考えれば、いろんなまあチャンスがあるわけですから、それを必要であればそういうプロジェクトチームでも立ち上げてですね、そういうふうなものを企画立案してもらいたいと思いますが、その辺について答弁願います。

○議長（皆川鉄也君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。

○町長（堀内満也君） すいません、1回休憩をお願いします。

○議長（皆川鉄也君） 休憩いたします。

午前11時21分 休 憩

.....

午前11時21分 再 開

○議長（皆川鉄也君） 休憩前に引き続き一般質問を継続します。

ただいまの11番議員の質問に対し、当局の答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 山本議員の質問にお答えいたします。

いずれですね、この八峰町は山だけでなく、やはり海も魅力的なスポットだというふうに私は思っております。したがって、議員のご提案のとおりですね、シーカヤックにつきましても、先ほど大人向けのシーカヤックもできるというようなところもありますので、できるとすればですね、もう少しPRが不足していたということでございますので、そういったところも含めてですね、しっかりと進めていきたいなと思っておりますし、いずれ部局がですね観光部局、あるいはその体験センターですと教育部局というふうに分かれているところがございますので、そういった壁を取っ払ってですね、全庁一丸となってこの観光振興にしっかりと努めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君） 11番議員、ほかに質問ございませんか。11番山本優人君。

○11番（山本優人君） いずれ私はプロジェクトチームをつくった方がいいと思えますよ。ていうのは、いろいろな課があって、これ分かれてやっているとね、いろんな、こっちでは問題ないけども、こっちの課ではこういう問題があるというのが出てくるわけですよ。そういうことをやってみるからなかなか進まないのであって、やはり、まあ何か一つこうやろうとした時に、一つのプロジェクトをつくってスムーズになるように、しかも早くなるようにやってみる方がいいと思えますが、それで、その質問を求めて最後の質問にしたいと思えます。

○議長（皆川鉄也君） ただいま11番議員の再質問に対し、答弁を求めます。堀内町長。

○町長（堀内満也君） 今議員の方からプロジェクトチームの提案がありましたけれども、いずれですね庁内でそうしたプロジェクトチームをつくれるようですね検討を進めてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（皆川鉄也君）　これで11番議員の一般質問を終了いたします。
休憩いたします。11時30分より再開いたします。